



平成30年度第3号高岡市立中田小学校

学校だより

あしつき

平30年7月20日発行
発行責任者 林 由香

子供の思いに共感し、自信をもたせる夏休み

教務主任 松谷 美穂



4年生の理科「空気と水」の学習をしているときのこと。空気でっぼうの玉が飛び出す仕組みを説明している子供が「空気が、ぎゅうって押されて我慢できなくなって玉を押し出すんだと思う」と言った。なるほど、空気を人にたとえて、子供らしい発想だと心が温くなる発言だ。「詳しく言ってみて」と説明を求めると、自分が

「押しくらまんじゅう」のような遊びをしたときの体験を語ってくれた。

授業は、子供らしい発言が支えている。子供が自分の言葉で語ってくれると、授業は盛り上がり、学習内容も印象深くなる。子供らしい発言とそれを引き出す教師の役割が鍵となる。では、どうしたら子供は、子供らしい発言をもち、それを表出できるようになるのだろうか。

一説によると、子供らしい言葉、例えば「空気と水」の学習での「ぎゅうって押されて我慢できなくなって…」という部分である。こういう子供らしい発言を生むには、豊かな生活体験が、言葉と結び付いていることが大切だと言われる。そのためには、いろいろな生活体験をし、そのときの子供らしい発言に共感し、子供の言葉を肯定することが大切であると言われる。自信が付けば、話すようになるだろうし、聞いてくれる環境があれば、話したいと思うようになる。大人だって自分の話を聞いてくれる人に話したいと思うのだから、子供だってそうであろう。

もう少しで始まる夏休み。夏休みだからこそできる体験がある。観察や実験、どこかへ連れて行くとかではなくても、いつもはしてもらっている食事の後片付けや玄関掃除等、子供の取り組める時間は、いつもより多い。その後、「どうだった？」と聞いてみる。「大変だった」と答えたとする。そこで、「何が大変だった？」と共感しながら聞くと、子供は詳しく話し始めないだろうか。

子供の話は、思いばかりが先に立って、分かりにくいことがある。そんなときは、思いには共感しながらも、誰にでも分かるように修正してあげる。それが、言葉を増やすことにつながると思う。



保護者の皆さんの夏休みは短く、子供たちの夏休みは長いです。この長い休みが、子供の発想を豊かにし、有意義な時間となることを願っています。そして、2学期が始まったとき、それをうまく引き出せるように、私たちが教師も研修を積む有意義な時間になるようにしたいと思います。

